



えんじゅ

春日市立春日小学校

校長室便り No.5

令和3年7月2日

文責：校長 福島

語り継ぐ



今週、千葉県で下校中の小学生の命がなくなるというとても悲しい事件が起きました。亡くなられた方に心よりご冥福をお祈りするとともに、けがをされている方の一日も早い回復を願っております。

このような登下校中の児童が巻き込まれる事件が起きるたびに、本校で1997年8月に起きた悲しい事件が残してくれた教訓を後世に伝え続けなければならない思いに駆られます。

今、本校はコミュニティ・スクールとして学校・家庭・地域の三者が力を合わせて子供を育てていこうという文化が確かに根付いています。その証として令和元年度には、文部科学省から優れたコミュニティに贈られる日本一の表彰を受けました。

「みんなで子供を見守っていこう・育てていこう」その文化をつくる一つのきっかけになったのが1997年の事件であったと私は感じています。

本校で毎日行っている集団下校は、この事件をきっかけとして始めました。また、現在リリースが様々な子供たちを楽しませるアンビシャス活動を行っていますが、リリースは当時「学校のために何かしたい」というPTA有志が集まってできたサークルです。当時のメンバーが今も変わらぬ思いで活動を行ってくれています。小倉・昇町両地区では、登下校時にたくさんのボランティアの方々が見守り活動を行っています。ありがたい限りです。

学校便りでも伝えましたが、子供たちには再度登下校の安全指導を行いました。最近、地域の方から「子供たちの登下校の仕方が大変悪い」というお叱りを受けています。確認すると、通学路を通らなかつたり、交通ルールを守らなかつたりと、目に余る行動もあります。どうぞご家庭でも命を守る行動についてお話してください。また、ボランティアとしてできる範囲で結構ですのでPTA腕章をつけた見守りや巡回にご協力ください。

春日小の校長だからこそ、忘れてはいけない、伝えなければならない思いがあります。